




竜居区調査日誌7 前編





茜音は桜花の超勃起した超巨大ペニスをよじ登ると  
亀頭に腰かける。自身の飛び出た巨大子宮を両足に  
引っかけそれと対称になる箇所を両手でつかみ、まるでムササビのように子宮をおっぴろげる。

どう見ても挿入不可能なサイズだがギガワタ相手に  
鍛え上げられてきたオンナノホの女体性能は次  
元が違う。

「さすがにこの極太だと亀頭だけでお腹いっぱいになりそうかなあ。」



その柔軟で伸縮性の高い子宮を「コンドーム」を  
着けさせるかのように亀頭に被せていく。

「ああああんっ！あああああっ。  
パンパンの亀頭がビクンビクンに脈打って。  
それだけで感じちゃいますう。」

桜花のペニスの脈動と自身の超乳重心移動を利用して  
茜音は体を後退させながら亀頭を呑み込んでいく。



茜音は足の裏で子宮の端を亀頭の裏に押し込み固定する。巨大過ぎる亀頭は子宮をその形に盛り上げている。

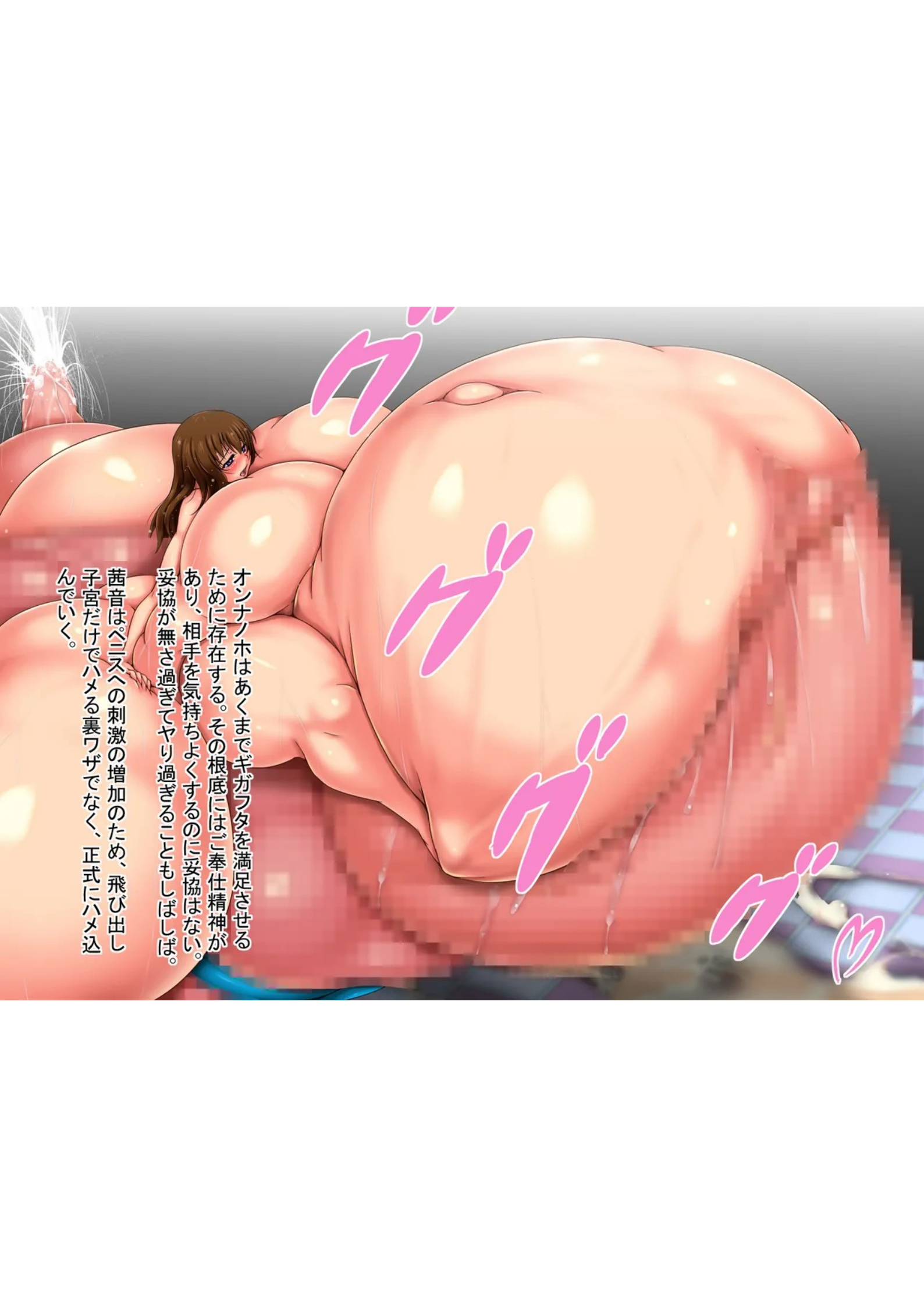
「あああああつ！ あああんっ！  
もおさすがに一度イクウウウツツ……！！  
あああああひいああああんっ！！」

せつかくハメ被せた子宮が途中で外れないよう  
固定できるまで我慢していた茜音は噴乳を強め  
ながら絶頂する。

「あああああつひいひやあああつ！  
超極太がビクビクするだけでいきまくる  
のおほおほおほおほおほおほおつ！」

我慢していた反動で予定外に何度も達する。  
子宮は亀頭を締め付けそれに反応して射禁  
状態のペニスさらに脈打つ。その脈打ちで  
茜音はまたも絶頂に到達する。

ハメるので精一杯で両者共まともに動けない  
状態だがただそれだけで刺激は充分過ぎる  
程にある。



オンナノホはあくまでギガヲタを満足させる  
ために存在する。その根底にはご奉仕精神が  
あり、相手を気持ちよくするのに妥協はない。  
妥協が無さ過ぎてやり過ぎることもしばしば。  
茜音はペニスへの刺激の増加のため、飛び出し  
子宮だけでハメる裏ワザでなく、正式にハメ込  
んでいく。

「ああああんっ！ひいああああああっ！  
ウルトラドデカチンポオひゅごひいっ！  
まひやあ伊ッグウウツツ……！  
ああああああああああっ！」

増加する圧に桜花のペニスが反応して脈打ちがさらに激しくなっていく。そこへ射禁状態ゆえの空撃ち射精が加わり、ペニスはナニかのアトラクシヨンのように跳ね回る。

「おほっおほおほおほおほおほおほおっ！  
イクイクイクイクイクイクイクウ~~~~ツツ！  
あああああああっ！イ、伊ッグウウツツ！  
問りよう無にようでえ感じりゅとごお擦りちゅ  
ぶされりゅのおほおほおほおほおっ！」









「おひい！ほひい！ほおおおおおおおつ！  
りやめえええ！イッグウウウウウツツ！  
おっひゅっつっ…！ほおおおおおおおつ！」

もう何度も限界を超えさせられている桜花は意識も体も強制的に刺激で繋ぎ止められている状態だった。ほほ精液は出し尽くして萎えれば一瞬でおちて楽になれるはずなのに射禁がそれを許さない。

A large, inflated, pinkish-red body, possibly a character's body, is shown in a state of extreme distension. The body is covered in numerous small, glowing yellow spots. At the bottom center, a small character with long, flowing purple hair and a red forehead ornament is visible, looking up. The background is a simple, light-colored wall.

茜音は超乳を揺らすことで体を振動させてハメた超巨大亀頭を刺激する。

その刺激で桜花のペニスはまだ達するがもちろん精液は出ない。

今ので桜花の意識が飛ぶ。

気絶は一時的なもの、どうせすぐに刺激で意識を引き戻される。それでも桜花にはわずかな安息。


だが、その気絶の時間は桜花に望まぬ進化を与えることになる。

「ひいひやあああああああああつ！  
極太でイクイクイクイクグウウウツ！  
あああつ！ほひよおおおおほおつ！」

「イグイグイグイグウウウツツ！  
あひいっ！ほおおおおおおおつ！  
イググウウツ！おおおあひやあああつ！」

「あひやあああああおあほおおおつ！  
イグのお止まんなあひいほおおおおつ！  
ほおおおおおおほおおおおつ！」





茜音に負けず桜花も何度も何度も全力全開で絶頂する。  
全てを酷使され続ける桜花の体は自然と当然のごとく  
エネルギーを求めていく。  
茜音のミルク中出しで膨れ上がった桜花のボテ腹は  
彼女が気絶するたび、その時間だけ急激に萎んでいく。

追い詰められた体だからこそその異常なほどの速度  
での吸収。増強成分とそれを実現する栄養が桜花  
の中にどんどんと蓄積されていく。



体の数倍まで膨れていたお腹が元に戻る。  
桜花の爆発進化の糧となる母乳は手品の  
ように消え、桜花の体に浸み渡る。

「痛っ……づうあああぁっ……」

またも気絶していた桜花は急に生じた全身の  
痛みに意識を戻す。精液よりも強力な増強性  
と豊富な栄養を兼ね備えた母乳は成長痛を  
伴うほどの急変化をもたらす。



不  
毛  
毛  
毛...

成長というより膨張。

止まらない超発育で桜花のおっぱいは  
どんどん巨大化していく。  
そして、下半身も太く逞しく育ちだす  
とペニスも根本がぶっくりと太くなる。

「……………」

痛みが快感に混ざって気持ち良さが数段  
跳ね上がったように錯覚する。  
桜花は声を出せないほどに絶頂しては気絶  
し無理矢理覚醒を繰り返す。

「ああああひやあああああああああほおおあああつ！  
極限チンポが射精状態で無理矢理イカひやれてえ  
ひり出ひいた精液が管にどんどん詰まっへえぶつとく  
なりゆのしゆきいっ♪  
あああつ！チンポビクビクだけでイックウウウ！」

「あああああああああつ！  
イグイグイグイグウツ！  
おほおほおほおほおほおつ♪  
まひやに私用の極太チンポれしゅう♪  
おほおほおつ！まひや射精極太お来ひやあつ！」



(……あれ？  
これって精液溜まったの膨張じゃない？  
う、嘘お。まさかここからさらに勃起？  
いえ経験上それはありえないはず。。  
なら一体……)









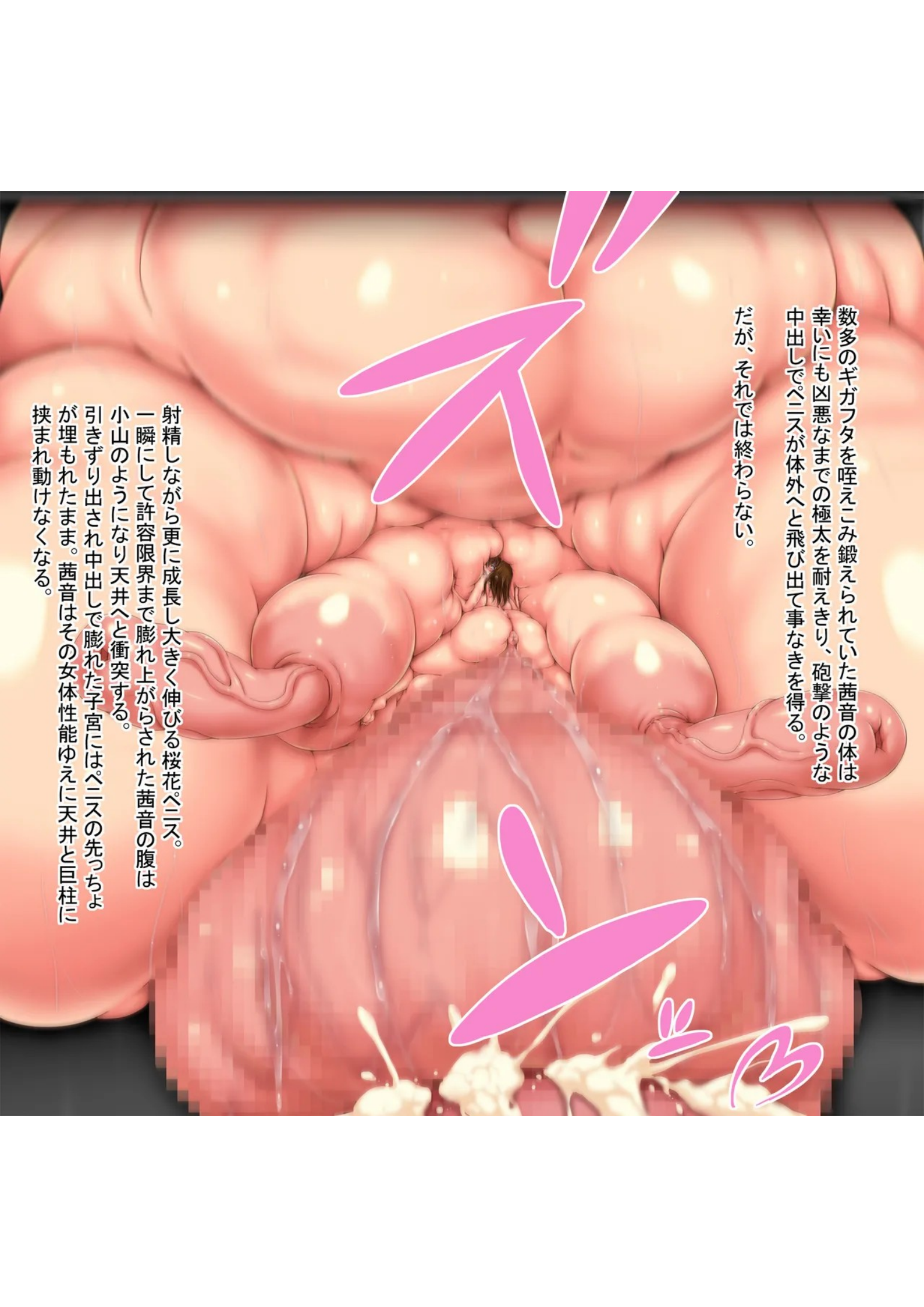
太さに加え長さも一気に成長する。  
乳房とペニスの巨大化が進めば当然タマチチ性能も  
上がり、生産力が跳ね上がった精液が栄養補給を  
受けて猛烈な勢いと量で管を駆け上がっていく。

大量精液内包による極太化がとどめ。  
投擲用対ギガフタ射禁ベルトが千切れ飛ぶ。

「あつぎいっつ……  
さ、裂けりゅー！裂けりゅーっ！  
店長お助けえほおおおおおおおおっ！」

精液が茜音の締りを越えて鈴口近くまで到達する。  
一度緩めばあとはなだれ込むだけ。射禁の反動で  
勢いが増した精液が茜音の中に炸裂する。





数多のギガフタを唾えこみ鍛えられていた茜音の体は  
幸いにも凶悪なまでの極太を耐えきり、砲撃のような  
中出しでペニスが体外へと飛び出て事なきを得る。

だが、それでは終わらない。

射精しながら更に成長し大きく伸びる桜花ペニス。  
一瞬にして許容限界まで膨れ上がらされた茜音の腹は  
小山のようになり天井へと衝突する。

引きずり出され中出しで膨れた子宮にはペニスの先っちょ  
が埋もれたまま。茜音はその女性性能ゆえに天井と巨柱に  
挟まれ動けなくなる。

限界なはずなのに捻じ込まれていく精液で  
茜音の腹は歪に変形し軋む。子宮も提灯の  
ように丸々と膨れはち切れ寸前だ。

「おほおほおほおほおほおほおほおほおほおほおつ!!  
イグイグイグイグイグイグイグイグイグウウウツ!!  
あひゃほおほおほおほおほあああああああつ!!  
まりやイグウツ! イグイグイグイグイグウツ!  
イグのお止まんなあひひひひやほおほおほおつ!!」

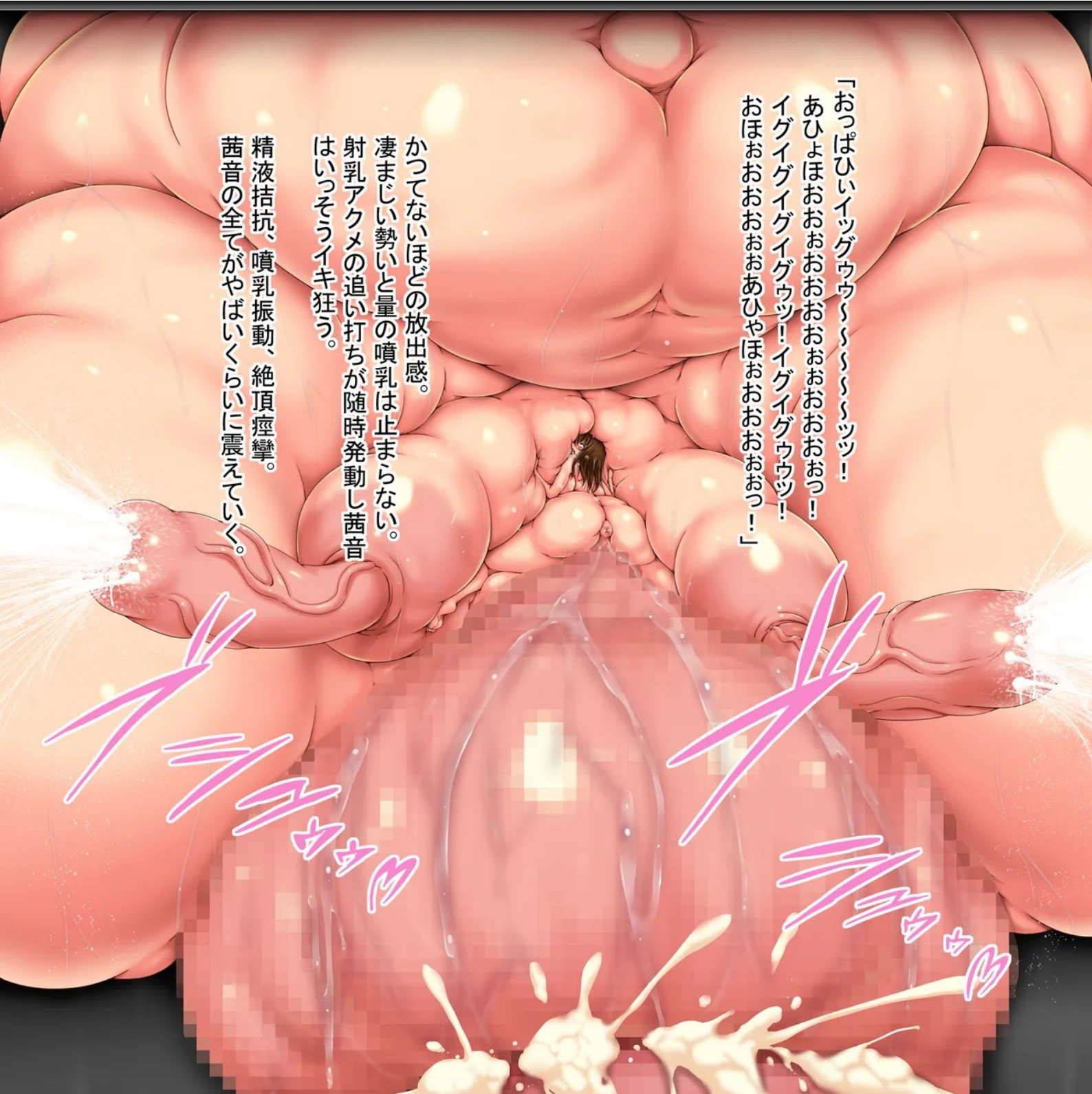
これ以上入らせまいと中出し精液と射精がせめぎ合う。  
そのせいで茜音の中の精液は流動する。  
これほどの規模のそれは茜音を責めイキ尽くすに十分な  
刺激になっていた。

桜花からの意趣返しと言ってもいいように  
茜音は何度も限界を超えさせられていく。  
腹の膨張は最大値を更新し続け、さらに超  
勃起した乳首はあまりの肥大度に一瞬噴乳  
が途切れる。

「おっぱひいッグウウ~~~~ッッッ!!  
あひよほおおおおおおおおおおおお!!  
イグイグイグイグウツッ!イグイグイグウツッ!  
おほおおおおあひやほおおおおおお!!」

かつてないほどの放出感。  
凄まじい勢いと量の噴乳は止まらない。  
射乳アクメの追い打ちが随時発動し茜音  
はいつそうイキ狂う。

精液拮抗、噴乳振動、絶頂痙攣。  
茜音の全てがやばいくらいに震えていく。





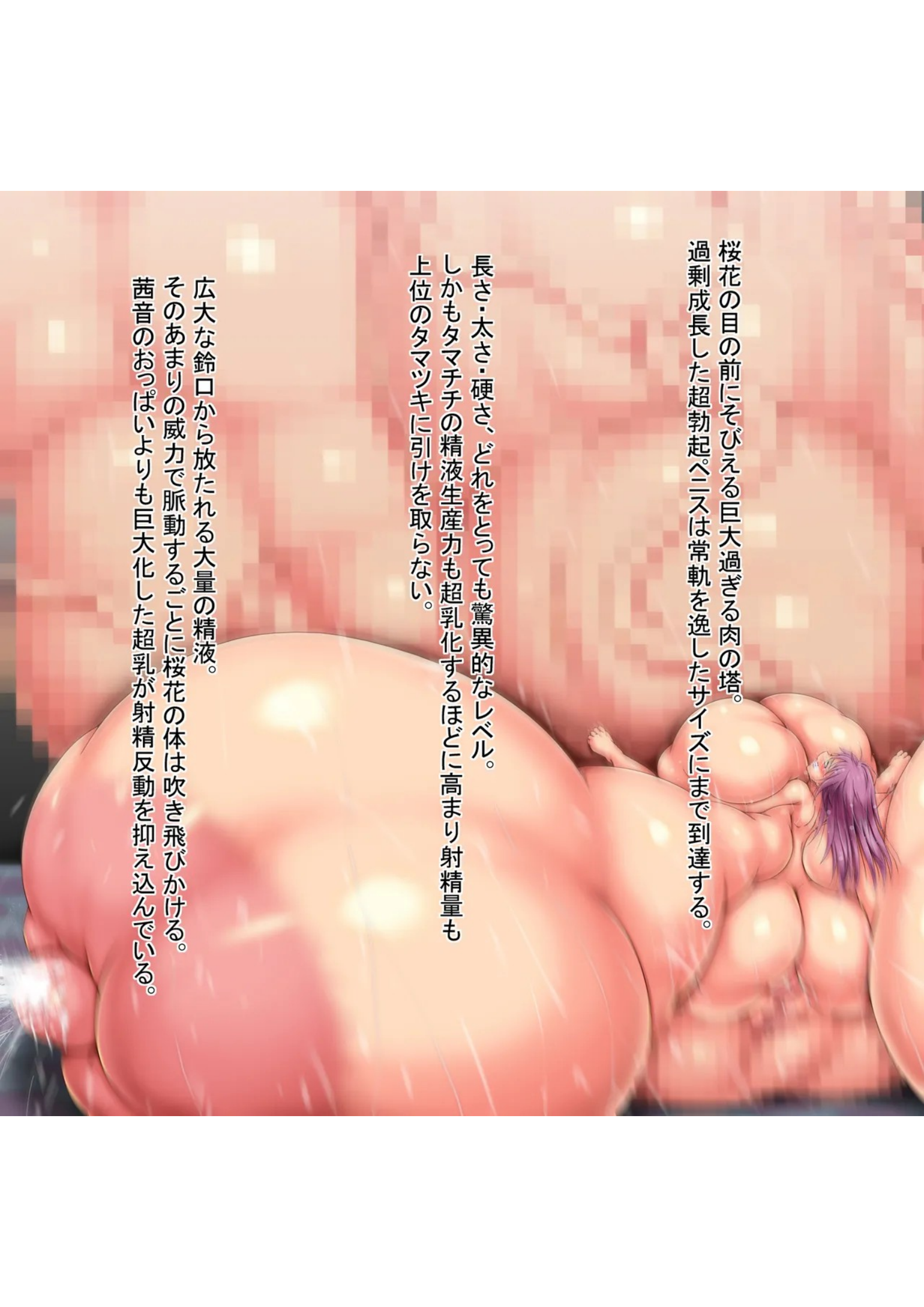
茜音の震えが膠着を崩す。  
茜音の子宮口と桜花。ペニスの鈴口がようやく離れる。

ペニスは解放された途端まだまだ出し切れずにあった  
大量の精液を天井へと炸裂させる。  
そのあまりの量に建物がまた揺れる。

「……ああ……」

お「おおおおおおおおおおおおおほおおおつ！  
いっぐうううううほおおおおおあああひいっ！  
あ「おおおほおおおおひいほおおおおおおつ！」


ようやく精液詰めから解放された茜音だったが  
次は猛烈な逆噴射が始まる。  
その放出快感に絶頂が山積みになされていく。

A character with long purple hair is lying on their back on a massive, muscular, pinkish-red body. The body is composed of large, rounded muscle groups, giving it a 'tower of meat' appearance. The character's face is visible, looking upwards. The background is a soft, warm glow of pink and orange light.

桜花の目の前にそびえる巨大過ぎる肉の塔。  
過剰成長した超勃起ペニス は常軌を逸したサイズにまで到達する。

長さ・太さ・硬さ、どれをとっても驚異的なレベル。  
しかもタマチチの精液生産力も超乳化するほどに高まり射精量も  
上位のタマツキに引けを取らない。

広大な鈴口から放たれる大量の精液。  
そのあまりの威力で脈動することに桜花の体は吹き飛びかける。  
茜音のおっぱいよりも巨大化した超乳が射精反動を抑え込んでいる。



砲撃のような射精が天井に何度も炸裂する。  
ギガフタ対応の高い天井であるはずなのに当たり前に  
精液が撃ち込まれていく。

時折大きく跳ねかえった精液が桜花本体まで降り注ぐが  
ほとんどは桜花と茜音の間に滝のように落下していく。

「……………」

限界を超え過ぎて全てを酷使され尽くしたせいかわ、これ以上の快感  
は危険とした防衛反応か、急成長した直後から一時的に桜花の感覚  
はほぼ無くなっていた。

桜花はただただ無言で超巨大ペニスに揺さぶられていく。

対して茜音はひたすらに絶頂で絶叫する。  
詰めに詰め込まれた中出し精液は思いの外に大量で  
逆噴射がまるで止まらない。

桜花の極悪な極太で拡張され続け拡がりに拡がった  
子宮口から一度に放たれる精液は膨大。

そのロケットのような噴射で茜音は壁に押し付けられ  
ながらだんだんと降下していく。

「おっああああほおおああああひいっ！  
あああひゃああああほおおおっ！！  
「おおおおおほおおおおっ！！  
ひいほおおおおおおおおおっ！！」



逆噴射精液は桜花の射精と衝突し一緒に落ちて下に溜まっていく。排液機構があるはずなのに精液量が多すぎて茜音の下には精液の海ができあがっていく。

「お」おおおほおおおおおおひいほおおおおおおおっ！  
いっぐうっほおおおおおおひいほおおおいっぐうっ！  
あぎひいほおおおおおおおいっぎいっひいひいひいひいっ！  
いぎいじぬうほおおおおおおおほおおおおおおっ！」

なまじ経験を積んできた茜音は気絶できないままイキ狂う。かつてない放出快感で絶頂が途絶えない。だが、この放出量。逆噴射も射精もそれほど長くは続かない。

先に尽きたのは桜花の射精。  
存在感の塊だった肉の塔は幻のように消え、鈴口が拡がりきった  
亀頭が精液の海から顔を出している。

天井に撃ち込まれた精液はこびり付き、天井から床へと幾重にも  
白いベールがかかっている。

桜花は虚ろながらも瞳を開け痙攣しているが快感の余韻でただ反応し  
ているだけ。あまりに凶悪な射精の余韻という電気信号が果て尽くした  
桜花を無理矢理動かしているだけだ。

あらゆるものを全力で出し尽くした桜花はしばらくは眉一つ動かすこと  
もできない。





飛び出た子宮が萎みだすと推進力を失い茜音は落下する。  
だんだんと降下してからの精液溜まりへの落下のため怪我はない。

「あひゅっ……  
はへえっ……おほおおおおおおおおっ！」

強烈な射精圧で押し込まれ相当なまでにゲル化した精液は簡単には飛び出してくれない。  
茜音はまともに動ないまま精液に浮き、時折来る濃厚逆噴射に悶え続ける。



「不動様相手なら時間もかかりそうだし  
仕事も抜けられなかったから見に来る  
の今になったけど・・・」  
二人ともなかなか凄いに  
なってるわね♪」

伊緒奈は現場に到着した途端  
たまらず乳首もペニスも勃起  
させてしまう。

ムクムク



——桜花と茜音の性交が決着してから5時間後。



排泄が充分に機能して残っているのは  
茜音が最後の方にひり出した超濃厚  
ゲル精液ぐらい。

逆噴射がきつちり終わりきらない状態が続き  
完全に気を失えたのは少し前のことだった。

ギガチンポを啜えこめる点ですでに驚異的だが  
オンナノホの真価は異様なまでの回復力。  
超巨根で伸び拡げられた部分もしばらくすれば  
元に戻るし、イキ尽くしてもすぐに復活してくる。

そんな女体性能を誇るオンナノホが子宮と腹を  
大きく伸びきらせたまま気絶している。  
いったいどれほどのペニスに犯されてしまったのか  
この惨状を見て興奮しない童居区住人はいない。



「あああんっ！  
「こ、こ、これはちよつとマズイかもお…♪」



伊緒奈の瞳に映るのは進化した桜花ボディ。  
女帝への奉仕に参加できるほどのペニスを持つ彼女が  
極度に興奮するほどの極悪極上の肉体。

興奮で制御不能になった超生産力の巨大タマは次々と  
巨大なゴブを作っては全体を膨れ上がらせていく。

米  
コ  
ゴ  
米  
コ  
ゴ

「んんんっ！  
この勢いだとタマが大きくなり  
過ぎて身動きできなくなるわ  
ね……！」



「だからと言ってこの状態の私がこゝで射精すると  
この店の排液力じゃ確実に大洪水……！」

「こゝはサポートか助っ人を呼んで私と桜花様を  
自宅へ運んでもらうのがベストね。  
サイズが大きく変わっただろ桜花様を今度は  
店長の私が測定し直さないといけませんから♪」



萎えているはずのそのペニスは  
すでに2mを軽く超えている。

乳房も超絶巨根のタマチチである  
せいで肥大度が倍化して8m近い  
大きさになっている。

目覚めた桜花はナニを思うのか。  
どうせ考える間もなく伊緒奈戦  
が始まる…。













